

釈迦ヶ岳 (1799m) ・大日岳 (1568m) [※ 実施日—2023年9月26日(火)]



(ハイライトシーン)

※弥生班 計6名、 (山本、岡本、木村、楠部、有本)

① (7:30—登山口にて)



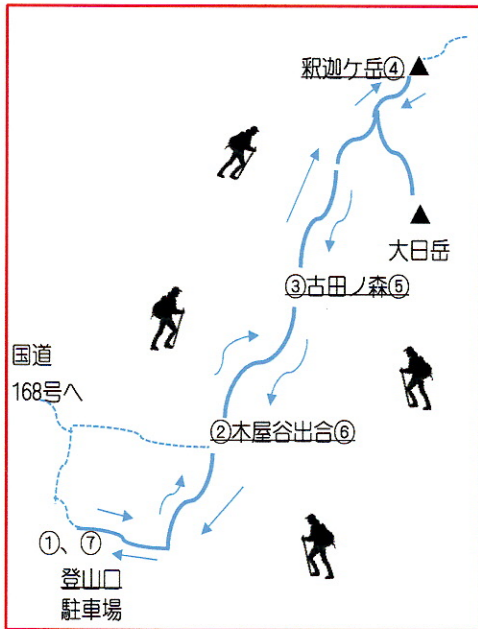
② (登山届)



③ (古田ノ森から大日岳を望む)



(釈迦ヶ岳・大日岳のロードマップ)



⑤ (大日岳の頂上)



④ (早朝の大日岳と雲海)



⑥ (釈迦ヶ岳)



⑨ (この木なんの木〜♪?)



⑧ (下山)



⑦ (都津門)

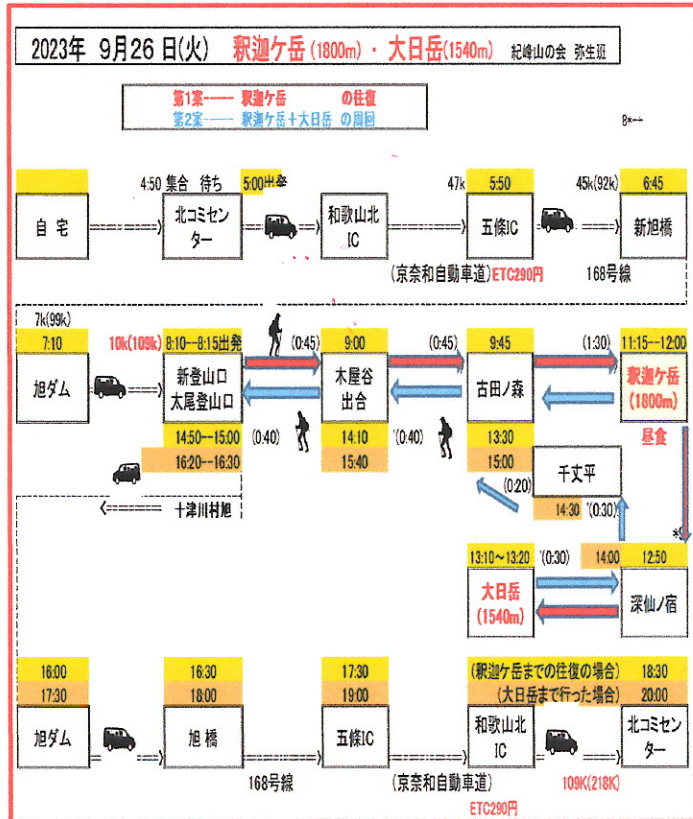


釈迦ヶ岳 ・ 大日岳

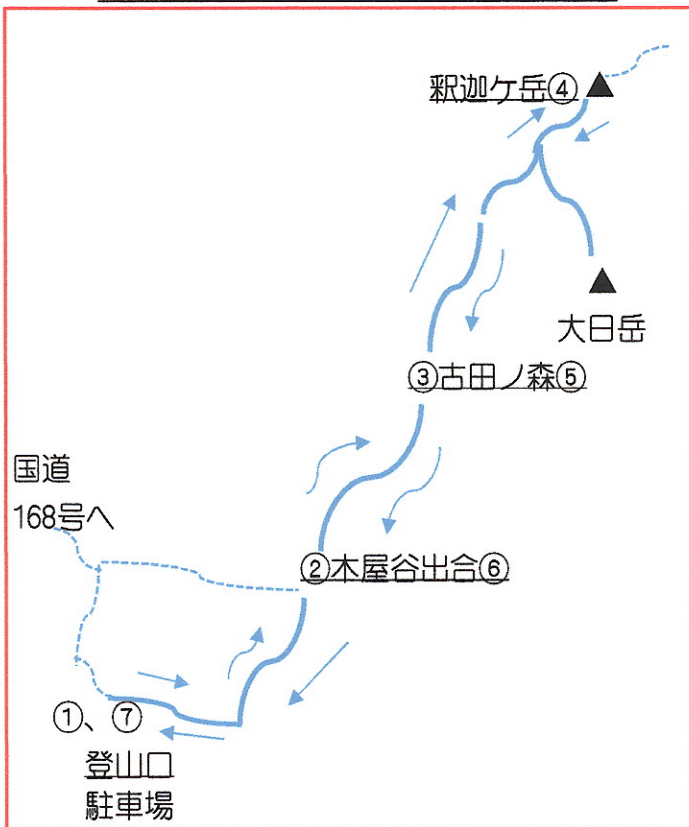
紀峰山の会 (弥生班)

※(山行日) ----- 2023年9月26日(火)

※(行程) [予定]



(釈迦ヶ岳・大日岳のロードマップ)



(メンバー) ----- 計6名

- 1班---山本、有本
- 2班---岡本、木村、楠部、中濱

※(行程) [結果]

(往路---車移動)

- 北コミセンター (出発) 5:00
- 登山口駐車場 (到着) 7:20

(山行)

- ① 太尾登山口 ----- 7:30
- ② 木屋谷出合 ----- 8:15
- ③ 古田ノ森 ----- 9:00
- ④ 千丈平 ----- 9:15
- ⑤ 深仙ノ宿 ----- 9:50
- ⑥ 大日岳 ----- 10:30
- ⑦ 深仙ノ宿 ----- 11:00
- ⑧ 釈迦ヶ岳 ----- 12:30

1班・2班合流 (昼食)

- ⑨ 古田ノ森 ----- 14:00
- ⑩ 木屋谷出合 ----- 15:00
- ⑪ 太尾登山口 ----- 15:45

(帰路---車移動)

- 駐車場 (出発) 16:00
- 北コミセンター (到着) 19:30

※[はじめに]

- ・『**釈迦ヶ岳**』(1799m)は奈良県の山深く、十津川村と下北山村の境にある日本二百名山の一つであり、山頂がユネスコ世界遺産・大峯奥駈道のルートであることでも有名である。
- ・山頂には釈迦如来像があり、登山者を出迎えてくれます。さらに山頂は遮るもののない360°の大パノラマが広がっており、大峯山系随一の絶景ともいわれています。
- ・『**大日岳**』(1568m)は「**金剛界**」・「**胎蔵界**」を表しているとされる「大峯山脈」の霊的シンボルとも言える山で、急斜面の鎖場が30メートルも続く命がけの行場でもあります。但し、頂上へは迂回路もあるが、ここも鎖場があり、ハードな山道である。
- ・「釈迦ヶ岳」の北側には「**両峯分け**」と呼ばれる場所があり、「大峯奥駈道」はここから北を「**金剛界**」、ここから南を「**胎蔵界**」とみなしています。

(写真1) (太尾登山口にて)



- ・北コミ 5時出発時は暗く天気の様子はわからなかったが、太尾登山口駐車場7時20分到着時は晴天で清々しい気分となった。
- ・平日であるが既に車両5台が駐車されていた。
- ・登山口で出会った他の登山者に記念撮影を依頼する。

(写真2) (登山届)



- ・安全山行を祈願し、先ず山行計画書を投函
- ・本日は体力に応じて2班に分かれ、1班は、大日岳～釈迦ヶ岳へ、2班は直接釈迦ヶ岳へと計画した。

(写真3) (1班の健脚組 大日岳～釈迦ヶ岳)

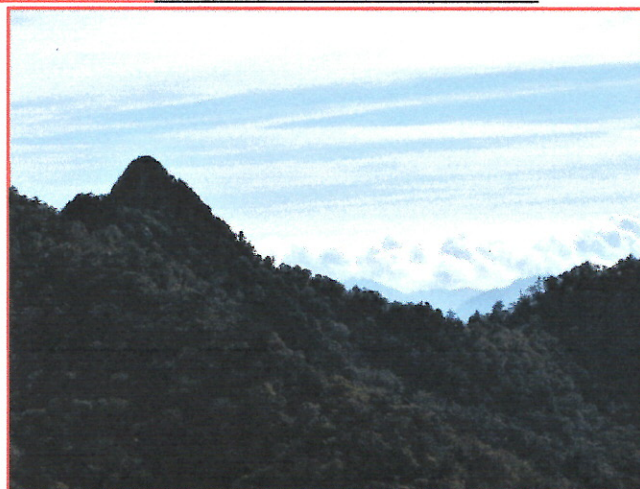


- ・1班は長距離となるため先行して出発。

(写真4) (早朝の大日岳と雲海---1)



(写真5) (早朝の大日岳と雲海---2)



- ・古田ノ森付近から望む大日岳。早朝の為ヒンヤリと清々しく、何となくアルプスの雰囲気があった。

(写真6) (トンボが飛んできたした)



(写真7) (千丈平)



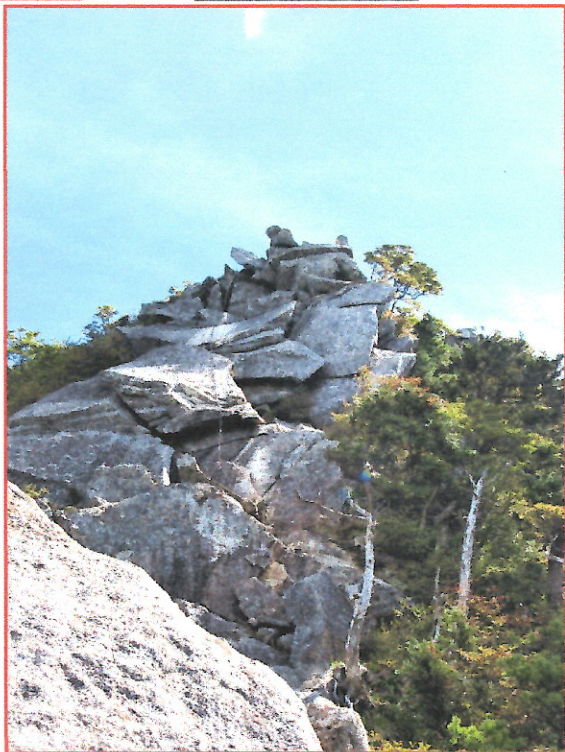
(写真 8) (晴天の下で)



(写真 9) (深仙ノ宿)



(写真 10) (大日岳の行場)



・急斜面の鎖場が30メートルも続く命がけの行場。約半分まで登ったが命が欲しいので迂回路へ廻る。

(写真 11) (大日岳の頂上)



・山頂には「大日如来座像」がまつられている。苦労したわりには、展望が今一つ？

(写真 12) (都津門)



・大日岳から釈迦ヶ岳へ向かうルートにくぐると極楽に行けるとされる39番目の「靡(なびき)」「都津門(とつもん)」がある。

(参考)

・「靡(なびき)」とは、大峯奥駈道は熊野本宮大社の本宮証誠殿から吉野川の柳の宿まで七十五個ある修行場を巡る修行道で、奥駈中に巡る七十五のポイントのことを靡と言い、熊野本宮が一番で吉野が七十五番である。

(写真 13) (釈迦ヶ岳・1)



・12時30分、1班と2班が合流

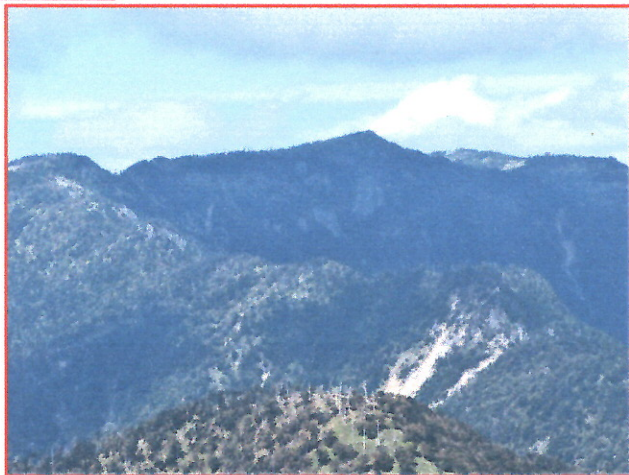
(写真 14)

(釈迦ヶ岳--2)



・大阪からの登山者と交流。

(写真 15) (釈迦ヶ岳から八経ヶ岳を望む)



・釈迦ヶ岳は展望がよく、360度のパノラマ

(写真 16) (下山--1)



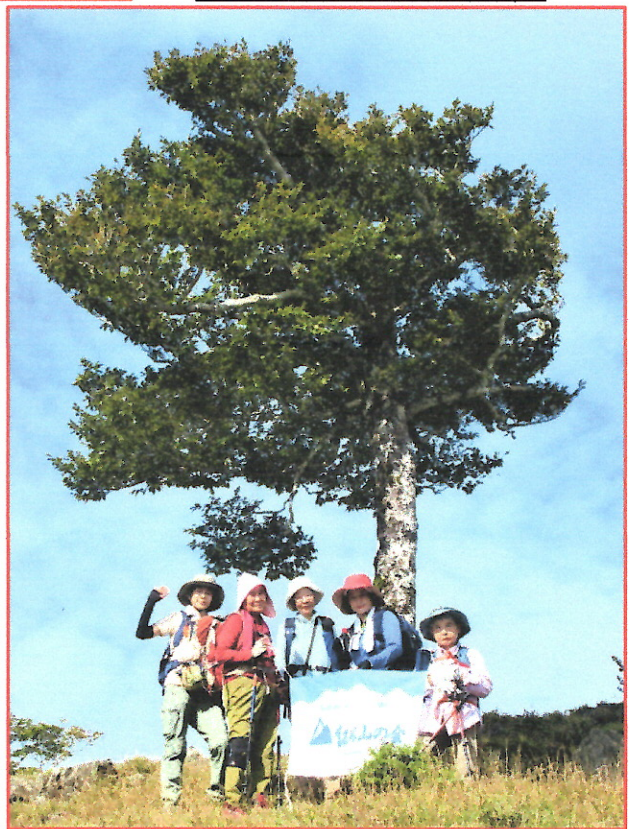
(写真 17)

(下山--2)



(写真 18)

(この木なんの木~♪?)



・15時45分、無事下山

【最後に】

○今回は2班に分かれ、1班2名は大日岳から釈迦ヶ岳へのルートとし、2班4名は直接、釈迦ヶ岳へのルートで、山頂で合流とした。

○1班の大日岳経由の釈迦ヶ岳ルートは、思った以上に距離と急登がありペース配分が早かったため、1名がオーバーワークとなった。

○2班はゆっくりのマイペースで景色を楽しみ、釈迦ヶ岳に11時30分到着。12時過ぎに1班と合流。

○天気がよく空が青く澄み渡り、遠くでは雲海が広がっておりアルプスの雰囲気を感じる景観に感動しました。

○特にトラブルはないが、車での移動で、山道に大小の石が転がっており、車の底に当たった。特に大事には至らなかったが、常に細心の注意を払って山道の状況を把握し、大き目の石は避けて、また、除去する必要がある。

○同コースを2年前にも登頂し帰りには雨に遭遇したが、今回は最高に天気がよく、前回とは違った雰囲気メンバー全員が満足の山行となった。